

審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
I 審議事項					
1. 規則関係					
提案1	「幹事会における提言及び報告の審議の手順について」の一部改正及び「表出主体が複数ある場合の査読の手順について」の幹事会申合せについて	渡辺副会長	B(7-8)	複数の委員会等が提出主体となる意思の表出について、手順を定める必要があるため。	渡辺副会長 -
2. 委員会関係					
提案2	(分野別委員会) (1)分科会委員の決定 (新規1件)	各部部长	B(9)	分野別委員会における分科会委員を決定する必要があるため。	会長 各部部长 (1)内規 18条
提案3	若手アカデミー分科会の設置及び委員の決定	若手アカデミー代表	B(11-12)	若手アカデミー分科会を新規設置し委員を決定する必要があるため。	三成副会長 若手アカデミー運営要綱
3. 提言等関係					
提案4	提言「アフリカ豚熱 (ASF、旧名称：アフリカ豚コレラ) 対策に関する緊急提言」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	危機対応科学情報発信委員会委員長、食料科学委員会委員長、農学委員会委員長	C(1-20)	危機対応科学情報発信委員会医療・健康リスク情報発信分科会、食料科学委員会獣医学分科会及び農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したため。 ※科学と社会委員会査読	危機対応科学情報発信委員会芳賀猛副委員長、食料科学委員会獣医学分科会高井伸二委員長 内規3条1項

提案5	提言「マイクロプラスチックによる水環境汚染の生態・健康影響研究の必要性とプラスチックのガバナンス」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長	C(21-64)	健康・生活科学委員会・環境学委員会合同環境リスク分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第三部査読	健康・生活科学委員会環境学委員会合同環境リスク分科会那須民江委員長、野原恵子幹事	内規3条1項
-----	---	-------------------------	----------	---	--	--------

4. 協力学術研究団体関係

提案6	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	B(13-14)	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①アジア教育学会 ②異文化間情報連携学会 ③一般社団法人日本外国語教育推進機構 ④日本学校教育実践学会 ⑤日本国際教養学会 ⑥FORMATH研究学会 ⑦日本大気化学会 ※令和2年3月26日現在2,065団体（上記申請団体を含む）	三成副会長	会則36条
-----	-----------------------	-----------	----------	---	-------	-------

5. 国際関係

提案7	令和元年度代表派遣について、実施計画の変更をすること	会長	B(15-16)	令和元年度代表派遣について、実施計画の変更を決定する必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第21条2項
提案8	日本学術会議会長のMICEアンバサダー任期延長について	会長	B(17)	日本学術会議会長のMICEアンバサダー任期延長について決定する必要があるため。	武内副会長	日本学術会議細則第3条(2)

6. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和2年度第2四半期】

提案9	学術フォーラム「メディアが促す人と科学の調和—これからの公共圏を考える—」の開催について	科学と社会委員会委員長	B(23)	主催：日本学術会議 日時：令和2年7月16日（木） 時間未定 場所：日本学術会議講堂 ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
-----	--	-------------	-------	--	---	--------

提案10	学術フォーラム「生きる意味—ウェルビーイングとリベラルアーツ」の開催について	科学と社会委員会委員長	B(25)	主催：日本学術会議 日時：令和2年9月20日（日） 時間未定 場所：日本学術会議講堂 ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案11	公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化(4)：6エリアモデルと新たな計算パラダイム」	総合工学委員会委員長	B(27-28)	主催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会 日時：令和2年7月4日（土）13：00～18：00 場所：日本学術会議講堂、他会議室1室 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案12	公開シンポジウム「人文学の国際化と日本語」	言語・文学委員会委員長	B(29-30)	主催：日本学術会議言語・文学委員会人文学の国際化と日本語分科会 日時：令和2年7月19日（日）13：00～18：00 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム「One health:私たちを取り巻く耐性菌の現状と対策—身近な耐性菌を知り、対策を考えよう—」	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	B(31-32)	主催：食料科学委員会獣医学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会 日時：令和2年7月25日（土）13：00～17：00 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案14	公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティに関する課題と今後の展望」	第二部部長	B(33-34)	主催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会 日時：令和2年8月10日（月・祝日）13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案15	公開シンポジウム「第4回若手科学者サミット」の開催について	若手アカデミー代表	B(35-36)	主催：日本学術会議若手アカデミー若手科学者ネットワーク分科会 日時：令和2年9月26日（土）13：00～18：00 場所：日本学術会議講堂	—	内規別表第1

7. その他のシンポジウム等						
提案16	公開シンポジウム「文化の互換可能性—継承、翻訳、再生—」	哲学委員会委員長	B(37-38)	主催：日本学術会議哲学委員会芸術と文化環境分科会分科会 日時：令和2年4月26日（日）13：00～18：00 場所：京都大学益川ホール ※第一部承認	—	内規別表第1
提案17	公開シンポジウム「高齢者が安心して暮らせるために：フレイル予防に焦点をあてて～取り組みを広げるために～」	健康・生活科学委員会委員長	B(39-40)	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会 日時：令和2年5月17日（日）14:30～17:00 場所：桜美林大学大学院四谷キャンパス（千駄ヶ谷）1階ホール ※第二部承認	—	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム「安心感等検討シンポジウム—安心感とは？—」	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	B(41-42)	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 日時：令和2年5月28日（木）13：00～17：00 場所：日本学術会議講堂講堂、他会議室1室 ※第三部承認	—	内規別表第1
提案19	公開シンポジウム「学術研究と科学技術基本法—その科学史技術史的検討」	史学委員会委員長	B(43-44)	主催：日本学術会議史学委員会科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会 日時：平成2年5月31日（日）13：00～15：30（※本企画は日本科学史学会年会に合わせて実施予定、但し開催日時は調整中、仮置き） 場所：国士舘大学世田谷キャンパス ※第一部承認	—	内規別表第1
提案20	日本学術会議中部地区会議主催学術講演会『高齢社会を生きぬくための取り組み』の開催について	科学者委員会委員長	B(45)	主催：日本学術会議中部地区会議、金沢大学 日時：令和2年6月9日（火）13:00～16：00 場所：金沢大学 十全講堂（金沢市宝町） ※地区会議が開催主体のため、幹事会の承認のみ	—	内規別表第1
提案21	公開シンポジウム「歯と口と健康のための体制作り：歯学における学術活動および国民への周知活動の方向性」	歯学委員会委員長	B(47-48)	主催：日本学術会議歯学委員会 日時：令和2年6月18日（木）14:30～16：00 場所：日本歯科大学生命歯学部100周年記念館 ※第二部承認	—	内規別表第1

提案22	公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（仮題）」	総合工学委員会委員長	B(49-50)	主催：日日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会 日時：令和2年6月20日（土）13：00～16：00 場所：東京大学理学部2号館講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案23	公開シンポジウム「インセクトワールドー多様な昆虫の世界IIー」	農学委員会委員長	B(51-52)	主催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会 日時：令和2年6月27日（土）13:00～16:45 場所：東京大学農学部2号館化学第1講義室 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案24	公開シンポジウム「第12回形態科学シンポジウム：生命科学の魅力を語る高校生のための集い～分子と細胞を観る楽しさ～」	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長	B(53-54)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、基礎医学委員会形態・細胞生物医学分科会 日時：令和2年8月20日（木）13:30～17:30 場所：慶応義塾大学信濃町キャンパス北里講堂 ※第二部承認	—	内規別表第1

8. 後援

提案25	国内会議の後援をすること	会長	—	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①「理論応用力学コンソーシアムキックオフシンポジウム」 主催：日本工学会理論応用力学コンソーシアム 期間：令和2年4月13日(月)～14日(火) 場所：東京大学山上会館（東京都文京区） 参加予定者数：約100名 申請者：日本工学会理論応用力学コンソーシアム代表 菱田 公一 ※第三部承認 ②「JapanOpenScienceSummit2020」 主催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所 期間：令和2年6月3日(水)、4日(木) 場所：日本科学未来館（東京都江東区） 申請者：大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所長 喜連川 優 ※第三部承認	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	---	---	----	-----------------

③特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会第38回年次大会

主催：特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会

期間：令和2年6月6日(土)、7日(日)

場所：名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)

申請者：特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会理事長 武田 朋子

※**第二部承認**

④第9回JACI/GSCシンポジウム

主催：公益社団法人新化学技術推進協会

期間：令和2年6月10日(水)～11日(木)

場所：ANAクラウンプラザホテル神戸(兵庫県神戸市)

参加予定者数：約700名

申請者：公益社団法人新化学技術推進協会 小堀 秀毅

※**第三部承認**

⑤日本天文学会全国同時七夕講演会2020

主催：公益社団法人日本天文学会

期間：令和2年7月7日(火)、8月25日

(火)を中心とした7～8月

場所：全国各地

参加予定者数：約10,000名

申請者：公益社団法人日本天文学会会長 梅村 雅之

※**第三部承認**

⑥SAMPE Japan先端材料技術展2020

主催：先端材料技術協会、日刊工業新聞社

期間：令和2年10月14日(水)～16日(金)

場所：東京国際展示場(東京都江東区)

参加予定者数：約15,000名

申請者：先端材料技術協会会長 尾崎 毅志、日刊工業新聞社代表取締役社長

井水 治博

※**第三部承認**

⑦第15回医療の質・安全学会学術集会

主催：一般社団法人医療の質・安全学会

期間：令和2年11月22日(日)、23日

(月)

場所：幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市)

参加予定者数：約3,500名

申請者：第15回医療の質・安全学会学術集会大会長 木村 壯介

※**第二部承認**

II その他

件名

資料(頁)

1.	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は4月30日(木)13時30分開催	D(1)
----	--	------

●幹事会における提言及び報告の審議の手順について（平成29年12月22日日本学術会議第258回幹事会申合せ）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>(略)</p> <p>1 分野別委員会又は分科会から提出された提言等の案については各部が、課題別委員会又は分科会から提出された提言等の案については「科学と社会委員会」が、機能別委員会の分科会から提出された提言等の案については各機能別委員会が、それぞれ責任をもって査読する。<u>表出主体が複数ある場合の査読の手順に関する事項は、別途幹事会で申合せる。</u></p> <p>(略)</p>	<p>(略)</p> <p>1 分野別委員会又は分科会から提出された提言等の案については各部が、課題別委員会又は分科会から提出された提言等の案については「科学と社会委員会」が、機能別委員会の分科会から提出された提言等の案については各機能別委員会が、それぞれ責任をもって査読する。</p> <p>(略)</p>

附則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。

●表出主体が複数ある場合の査読の手順について

〔 令和 年 月 日
日本学術会議第 回幹事会申合せ 〕

複数の表出主体が提言及び報告（以下「提言等」という。）の案を作成する場合において、提言等の案を査読することとされている部、委員会又は分科会（以下「査読組織」という。）が複数あるときは、査読は以下のいずれかの手順により行うものとする。いずれの手順とするかについては、作成の中心となった表出主体（以下「主たる表出主体」という。）の査読組織が決定する。

- 1 関連するすべての査読組織が、それぞれ所属する1名以上の会員又は連携会員を推薦して合同査読チームを構成する。合同査読チームの責任者は、主たる表出主体の査読組織に所属する者から、合同査読チームの互選によって選出する。合同査読チームが当該提言等の案について査読した場合は、すべての査読組織が査読したものとみなす。
- 2 関連する査読組織のうち、主たる表出主体の査読組織のみが当該提言等の案について査読を行う。この場合は、その他の関連する査読組織のすべてが査読したものとみなす。主たる表出主体の査読組織は、その他の関連する査読組織の協力を求めることとする。

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

【委員会及び分科会】

○委員の決定（新規 1 件）

（第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
秋葉 澄伯	弘前大学特任教授・鹿児島大学名誉教授	第二部会員
小松 浩子	慶應義塾大学看護医療学部教授、大学院健康マネジメント研究科教授	第二部会員
高井 伸二	北里大学副学長・獣医学部長	第二部会員
田中 純子	広島大学大学院医歯薬保健学研究科教授	連携会員

分科会等名： GYA総会国内組織分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	若手アカデミー
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	今後20年以上にわたってわが国の学術を牽引するべき若手科学者で構成される若手アカデミーメンバーが、世界各国から選抜された200名の若手科学者で構成される国際的若手学術組織であるGYA(グローバルヤングアカデミー)と共に、科学技術の未来や世界規模の社会課題の解決を考えるGYA総会兼学会を日本で開催するにあたり、本分科会を設置する。本分科会ではGYA共同代表、執行役員およびメンバーで構成される企画組織委員会と連携し、企画内容および登壇者の提案や国内的な準備を行い、かつ若手アカデミー以外の若手研究者や若手以外の研究者、行政官、産業界、一般市民も参加できる議論の場を設定できるよう連絡調整を行う。
4	審議事項	1. 日本の学術が地球社会において果たすべき役割と、そのあるべき役割に照らしたGYA総会の企画運営 2. GYA総会開催関連の連絡調整 3. その他、GYA総会の開催に係る審議に関すること
5	設置期間	令和2年3月26日～令和2年9月30日
6	備考	※24期にて新規設置

(GYA総会国内組織分科会)

氏名	所属・職名	備考
岩崎 渉	東京大学大学院理学系研究科准教授	連携会員
川口 慎介	国立研究開発法人海洋研究開発機構研究員	連携会員
岸村 顕広	九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科 連携会員 学センター准教授	連携会員
住井 英二郎	東北大学大学院情報科学研究科教授	連携会員
高瀬 堅吉	自治医科大学大学院医学研究科教授	連携会員
高山 弘太郎	愛媛大学大学院農学研究科教授	連携会員
竹村 仁美	一橋大学大学院法学研究科准教授	連携会員
中西 和嘉	国立研究開発法人物質・材料研究機構機能性材料研究拠点・分子機能化学グループ主任研究員	連携会員
西嶋 一欽	京都大学防災研究所准教授	連携会員
安田 仁奈	宮崎大学農学部准教授	連携会員

日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込み団体の概要

	団体名	概 要
1	アジア教育学会 (http://blog.livedoor.jp/jssaefrom200611/)	本団体は、アジア諸国・地域に関する研究対象や方法が多様化する一方、細分化が進み、特定の研究対象地域集中する傾向等、アジア教育研究の現状を克服するため、専門領域や研究方法を異にする研究者や専門家の協力関係のもと、同地域における教育の歴史・現状および展望に関する学術的研究を行うことを目的とするものである。
2	異文化間情報連携学会 (http:// cinex.main.jp/)	本団体は、異分野の研究者が集い、自らのグローバルな研究内容への多元視点の涵養や、国際理解・異文化理解、成熟した情報社会の進展に研究面で寄与することを目指し、「異文化間情報連携学」という新たな研究領域確立のため、ダイナミックかつダイバーシティに富んだ議論と活動を行うものである。
3	一般社団法人日本外国語教育推進機構 (http://www.jactfl.or.jp)	本団体は、多様性をもつ内容豊かな外国語教育が今の時代と社会に相応しい人材づくりのために急務であるとの問題意識のもと、多様な外国語教育関係学会・団体を横断的に結びつけ、連携・協力を図る組織をつくること、多様な外国語教育に係る活動についての情報を幅広く提供する場を設けること、中等教育、特に高等学校における多様な外国語教育の普及を制度的に推進することを目指すものである。
4	日本学校教育実践学会 (http://jissen2.web.fc2.com/)	本団体は、大学の教育関係者と学校現場の教育実践者である教師が、学校教育の目的に呼応しより密接な関係性のもとに協力し、教育の現代的な問題群の研究と先進的かつ有効な教育実践を着実に推進するため、学校教育に関わる実践を基盤とした研究を行い、その振興を図ることを目的とするもの

		である。
5	日本国際教養学会 (http://jaila.org)	本団体は、研究分野の細分化と専門化が続く現在の研究および学会活動の潮流のなかで、多用なバックグラウンドを持つ会員の学術的交流を通じて、各専門分野における研究活動の発展に寄与するだけでなく、新たな学術分野の創設や、今後生じる様々な社会・教育・環境分野等の問題の解決を目指すものである。
6	FORMATH 研究学会 (https://www.formath.jp/)	本団体は、森林資源の経営・管理に対して、データサイエンスに基づく数理モデルや統計モデルなどを応用した研究を主に対象とし、既存の学問体系を超えた分野横断的な学術領域の研究を推進し、研究者と実務者、あるいは森林資源経営・管理に関心のある者との意見交換を目的とする。
7	日本大気化学会 (https://jpsac.org/)	本団体は、地球上における化学物質循環を、大気を中心とした視点からとらえる「大気化学」という学問分野、およびこれらに密接に関連する学問分野に関心を持つ研究者相互の連携、および当該学問分野の進歩発展を図り、社会へ貢献することを目的とする。

令和元年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和元年度代表派遣実施計画の変更を行う。

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
1	国際地質科学連合 (IUGS) 総会・第 36 回万国地質学会議、理事会等	2 月 29 日 ～ 3 月 9 日	デリー (インド)	北里 洋 連携会員 (国立大学法人東京海洋大学特 任教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症流 行拡大のため開催延期
2	宇宙空間研究委員会 (COSPAR) 第 43 回総会プログラム委員会 等	3 月 16 日 ～ 3 月 18 日	パリ (フラン ス)	中村 卓司 連携会員 (情報・システム研究機構国立極 地研究所所長)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症流 行拡大のため会議開催中止
3	宇宙空間研究委員会 (COSPAR) 第 43 回総会プログラム委員・ 第 90 回理事会等	3 月 16 日 ～ 3 月 19 日	パリ (フラン ス)	藤本 正樹 特任連携会員 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学 研究所副所長、教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症流 行拡大のため会議開催中止
4	G サイエンス学術会議 2020	3 月 23 日 ～ 3 月 25 日	ワシント ン D.C. (ア メリカ)	武内 和彦 第二部会員 (公益財団法人地球環境戦略研 究機関理事長、東京大学未来ビジ ョン研究センター特任教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症流 行拡大のためメールにて審議
5	G サイエンス学術会議 2020	3 月 23 日 ～ 3 月 25 日	ワシント ン D.C. (ア メリカ)	岩崎 渉 連携会員 (東京大学大学院理学系研究科 准教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症流 行拡大のためメールにて審議

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
6	Gサイエンス学術会議 2020	3月23日 ～ 3月25日	ワシントンD.C. (アメリカ)	中村 征樹 連携会員 (大阪大学全学教育推進機構准教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症流行拡大のためメールにて審議
7	Gサイエンス学術会議 2020	3月23日 ～ 3月25日	ワシントンD.C. (アメリカ)	森 章 連携会員 (横浜国立大学環境情報研究院准教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症流行拡大のためメールにて審議
8	北極科学サミット週間 2020、 国際北極科学委員会 (IASC) 評議員会	3月27日 ～ 4月2日	アクレイリ (アイスランド)	榎本 浩之 特任連携会員 (国立極地研究所副所長)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症流行拡大のためビデオ会議に開催形式を変更

※Gサイエンス学術会議 2020 のテーマ追加について

新型コロナウイルス感染症の世界的流行拡大を受け、新たに新型コロナウイルス感染症に関するテーマを追加。
日本学術会議からは、テーマに対する専門家として下記の者が参加。

秋葉 澄伯 第二部会員 (弘前大学特任教授・鹿児島大学名誉教授)

日本学術会議会長の MICE アンバサダー任期延長について

1. 任 期: 令和 2 年 4 月 1 日～令和 2 年 9 月 30 日
2. 依頼機関: 独立行政法人国際観光振興機構
3. 活動内容:
 - ・MICE 開催の意義に関する国内での普及・啓蒙活動
 - ・国際的なネットワークを通じた海外の関係者に関する MICE 開催地としての日本の広報活動
 - ・日本への国際会議招致・開催の促進 等

(参考)

・MICE とは

企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称。日本学術会議は、Convention(国際会議等)の誘致・開催などに貢献している。

・MICE アンバサダーとは

MICE 活動を促進するため、国内での MICE 事業の普及・啓発活動、海外関係者に対する MICE 開催地としての日本の広報活動、国際会議の誘致・開催の促進を行っている。現在、約 60 名の MICE アンバサダーがおり、産業界・学術界から、学識・名声があり専門分野において影響力のある人材が就任している。中でも日本学術会議会長は、平成 25 年の MICE アンバサダー発足当初から就任しており、MICE アンバサダーの中でも最も重要なメンバーの一人となっている。

6. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和2年度第2四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として 年間10回程度
- (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
- (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和2年度第2四半期】 全2件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案9 [p.23]	メディアが促す人と科学の 調和—これからの公共圏を 考える—	令和2年 7月16日 (木)	日本学術 会議講堂	要	要
2	提案10 [p.25]	生きる意味—ウェルビー イングとリベラルアーツ—	令和2年 9月20日 (日)	日本学術 会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度 32回まで、及び 四半期ごとにおおむね8回
(ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【令和2年度第2四半期】 全5件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
1	提案11 [p.27-28]	公開シンポジウム「科学的知見の創出に 資する可視化(4):6エリアモデルと新た な計算パラダイム」	令和2年7月4日 (土)	日本学術会議講 堂
2	提案12 [p.29-30]	公開シンポジウム「人文学の国際化と日 本語」	令和2年7月19 日(日)	日本学術会議講 堂
3	提案13 [p.31-32]	公開シンポジウム「One health:私たち を取り巻く耐性菌の現状と対策—身近 な耐性菌を知り、対策を考えよう—」	令和2年7月25 日(土)	日本学術会議講 堂

4	提案14 [p. 33-34]	公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティに関する課題と今後の展望」	令和2年8月10日 (月・祝日)	日本学術会議講堂
5	提案15 [p. 35-36]	公開シンポジウム「第4回若手科学者サミット」の開催について	令和2年9月26日 (土)	日本学術会議講堂

(参考)

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム (平日3件/土日3件) 全6件 残り: 4件

(内訳) ※現在の6件中、6件は経費又は人的負担要

		第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
学術フォーラム	(土日)	2	1		
	(平日)	2	1		
合計		4	2		

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 (学術フォーラム含む) 全13件 残り: 19件

(内訳)

		第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
シンポジウム	第一部		1		
	第二部	4	2		
	第三部	1	1		
	若手アカデミー		1		
	課題別				
学術フォーラム (土日)		2	1		
合計		7	6		

■承認済み案件一覧

1. 学術フォーラム

	テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	学術フォーラム「日本の学術の現状と展望—第6期科学技術基本計画に向けて—(仮)」の開催について	令和2年 5月9日 (土)	日本学術会議講堂	要	要

2	学術振興に寄与する研究評価のあり方——日本学術会議提言に向けて（仮）	令和2年 5月24日 （日）	日本学術会議講堂	要	要
3	オープンサイエンスの深化と推進に向けて（仮）	令和2年 6月3日 （水）	日本学術会議講堂	要	要
4	学術フォーラム「拡がるスポーツー東京オリンピック・パラリンピック後のスポーツを考えるー（仮）」の開催について	令和2年 6月18日 （木）	日本学術会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

	テーマ	開催日時	主催委員会等
1	公開シンポジウム「市民公開講座 明るい超高齢社会を切り開く～日本学術会議からのメッセージ」	令和2年 4月5日 （日）	日本学術会議臨床医学委員会老化分科会
2	公開シンポジウム「第12回基礎法総合シンポジウム：「移動・帰属・アイデンティティー人の国際移動と国家の役割ー」	令和2年 4月25日 （土）	日本学術会議法学分科会
3	公開シンポジウム「One health：新興・再興感染症～動物から人へ、生態系が産み出す感染症～」	令和2年 5月16日 （土）	日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会、日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会
4	公開シンポジウム「地質災害の研究とその調査方法の標準化に向けた取り組み」	令和2年 5月23日 （土）	日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会
5	公開シンポジウム「食の安全と環境ホルモン」	令和2年 6月13日 （土）	日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会
6	公開シンポジウム「若年者の視覚・聴覚障害と高齢者の視覚・聴覚障害」	令和2年 6月21日 （日）	日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会

日本学術会議主催フォーラム「メディアが促す人と科学の調和ーこれからの公共圏を考えるー」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和2年7月16日（木） 未定
3. 場 所：日本学術会議講堂
4. 分科会等の開催：未定

5. 開催趣旨：

科学と社会委員会メディア懇談分科会は、これまで科学に関するメディアの役割と現状を議論してきた。一般向け科学雑誌が次々と撤退する中、一般市民はどのように科学の情報を得ているのか、また政府とメディアと大学等の関係は時代とともにどのように変化し、政策に科学情報はどのように反映されているのか、様々な立場の科学関係者が議論する。特に、海外メディアの視点と SNS に代表されるインターネット情報に焦点をあてながら議論し、今後の公共圏の在り方を考える。

6. 次 第：（予定、交渉中のものも含む。）

開催挨拶・趣旨説明 渡辺美代子（日本学術会議副会長、第三部会員）

問題提起 山極壽一（日本学術会議会長、第二部会員）

講演 Science 誌の方針と最近の動向 Dennis Normile (AAAS Science 誌記者)

講演 テレビ・映画の脚本の作り方 大森美香（脚本家）（予定）

講演 情報通信技術から考える科学情報発信 喜連川優（NII 所長、連携会員）

講演 インターネット時代の情報発信と共有 Google 若手関係者（予定）

コメント Peter Landers (The Wall Street Journal 東京支局長)

パネル討論 科学者、ジャーナリスト、SNS 関係者の討論

（下線の講演者は、学術会議関係者）

日本学術会議主催フォーラム「生きる意味－ウェルビーイングとリベラルアーツ」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：令和2年9月20日（日） 時間未定

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 分科会等の開催：未定

5. 開催趣旨：

科学と社会委員会政府・産業界政府・産業界連携分科会はその緊急性を考慮して、大学と産業界両方の関係者が対等に議論し、近未来へ向けて双方が納得し推進できる提言を2018年11月に発した。この提言をもとに、昨年3月7日にはシンポジウム「Society 5.0に向けた産学共創のあり方」を、同年5月22日には学術フォーラム「産学共創の視点から考える人材育成」を、同年10月10日には学術フォーラム「産学共創がうみだすベンチャー・インキュベーション」開催した。これらを受け、これからの社会の在り方を考える際に重要となる生きる意味について、ウェルビーイングやリベラルアーツを中心に議論する学術フォーラムを今期のまとめとして開催する。これまで、理工学の提案に人文社会科学が関わる形で学術フォーラムやシンポジウムを開催してきたが、今回は人文学の考えに生命科学や理工学が関わる立場で議論する。

6. 次 第：（予定、交渉中のものも含む。）

開催挨拶・趣旨説明 山極壽一（日本学術会議会長、第二部会員）

講演 希望学を必要とする社会 玄田有史（東京大学教授）

講演 生きるための数理哲学 出口康夫（京都大学教授）

講演 宗教学から考える世界 藤原聖子（東京大学教授、第一部会員）

講演 AIが創る未来社会 粕谷昌宏（株式会社メルティン MMI）

コメント 五神真（東京大学総長、第三部会員）（予定）

パネル討論 哲学者、生命科学・理工学の科学者、企業関係者の討論

閉会挨拶 渡辺美代子（日本学術会議副会長、第三部会員）

（下線の講演者は、学術会議関係者）

公開シンポジウム「科学的知見の創出に資する可視化 (4) :
6 エリアモデルと新たな計算パラダイム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
2. 共 催（依頼中）：一般社団法人可視化情報学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、一般社団法人画像電子学会、一般社団法人情報処理学会コンピュータグラフィックスとビジュアル情報学研究会、一般社団法人芸術科学会、公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS）
3. 日 時：令和2年7月4日（土）13：00～18：00
4. 場 所：日本学術会議講堂他1室
5. 開催趣旨：データ可視化は、1980年代後半に欧米の研究機関から研究開発が開始され、この四半世紀の間、数学や統計と同様に、あらゆる学理に必要な横断的技術として浸透してきた。それをさらに発展させていくためには、技術固有の計算パラダイムを策定する必要がある。今期に開催した計3回の同名シンポジウムに引き続き、本シンポジウムでは、この分野を国際的に牽引する IEEE/CS/VGTC の VIS 改革委員会（reVISE）が、領域の再構成とさらなる発展を目指して昨年10月に発表した「6 エリアモデル」に焦点をあて、各エリアで先端的な取り組みを展開している講師陣を招き、参加者とともに同モデルを再吟味し、日本独自の解釈を与えると同時に、新しい計算パラダイム像へと結びつけていきたい。
6. 分科会の開催：開催予定
7. 次 第：
 - 13：00 開会挨拶
小山田 耕二（日本学術会議会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）
 - 13：10 6 エリアモデルの紹介と趣旨説明
藤代 一成（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授）
 - 13：25 各エリアの紹介（前半）
 - 司会：藤代 一成（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授）
 - エリア1：可視化の理論と実践
 講師：高橋 成雄（会津大学コンピュータ理工学部教授）
 - エリア2：可視化応用
 講師：大林 茂（東北大学流体科学研究所教授）
 - エリア3：可視化システムとレンダリング
 講師：斎藤 隆文（東京農工大学工学府情報工学専攻教授）
 - 14：40－15：00 （休憩）
 - 15：00 各エリアの紹介（後半）
 - 司会：田中 覚*（日本学術会議連携会員、立命館大学情報理工学部教授）
 - エリア4：可視化における表現と対話
 講師：五十嵐 健夫（東京大学大学院情報理工学系研究科教授）
 - エリア5：データ変換と可視化
 講師：清木 康（慶應義塾大学環境情報学部教授）
 - エリア6：可視化ワークフローと意思決定
 講師：高間 康史（首都大学東京システムデザイン学部教授）

16 : 15－16 : 30 （休憩）

16 : 30 パネル討論「6 エリアモデルから新しい可視化パラダイム像を探る」

ファシリテータ：藤代 一成（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授）

討論者：講演者・司会者・分科会・小委員会選抜メンバー

17 : 50 閉会挨拶

萩原 一郎（日本学術会議連携会員、明治大学研究・知財戦略機構特任教教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「人文学の国際化と日本語」の開催について

1. 主 催：日本学術会議言語・文学委員会人文学の国際化と日本語分科会
2. 共 催：国立国語研究所他（予定）
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和2年7月19日（日）13：00～18：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：本分科会の提言提出の前提として、海外日本研究者をも招いて国際シンポジウムを実施する。我が国学術情報の国際化と国際的学术交流の重要性は、人文学分野においては今世紀初頭より注目され、数々の事業が実施されてきたが、情報発信や海外情報の受容について、いまだ十分とは言えない水準にある。とくに日本及び日本語と関わる分野においては、海外における「日本理解」には不十分の感が拭えないし、実は海外日本研究の実態について、日本国内の研究者が必ずしも十全の理解に達していない実態がある。また我が国からの情報発信についても、海外研究者には不十分と認識されることが少なくない。この最大の原因の一つは、我が国の研究者に外国語（とくに英語）運用能力が決定的に欠けている点に求められてきた。しかしながらそのような問題が存在するのは日本文学などのごく限られた分野のみであり、必ずしも本質的な問題ではない。問題は言語をある種の道具としてのみ捉える発想そのものにある。むしろ人文学の国際化の難しさの背景には、学会や分野の枠を超えた、広汎で深い相互交流の欠如という問題が横たわっているように思われる。以上の認識に基づき、とくに人文学を中心とする我が国学術分野の課題と、国際学术交流における日本語の役割について、本分科会委員を主体に海外有識者を交え、共に考察する機会とするのが、本シンポジウム開催の趣旨である。
8. 次 第：
 - 13：00 開会挨拶 吉田 和彦（日本学術会議第一部会員、京都産業大学外国語学部客員教授）
趣旨説明 竹本 幹夫（日本学術会議連携会員、早稲田大学名誉教授）
 - 13：10～14：40 セッションⅠ〈言語学分野を中心に〉
司会 吉田 和彦（日本学術会議第一部会員、京都産業大学外国語学部客員教授）
 - 13：10～13：25 Wesley M. Jacobsen ウェズリー・ジェイコブセン（ハーバード大学教授：日本語学）または John Whitman（コーネル大学教授：日本語史）
 - 13：25～13：40 金水 敏（大阪大学大学院文学研究科教授、日本語学会会長：日本語

学、日本語史)

13：40～13：55 窪菌 晴夫（日本学術会議連携会員、人間文化研究機構国立国語研究所教授：言語学）

13：55～14：10 未定

14：10～14：40 討論

14：40～14：50 （ 休憩 ）

14：50～16：20 セッションⅡ〈文学分野を中心に〉

司会 竹本 幹夫（日本学術会議連携会員、早稲田大学名誉教授）

14：50～15：05 マイケル・エメリック（UCLA 准教授）または
ロバート・キャンベル（国文学研究資料館館長）

15：05～15：20 アンヌ・バヤール＝坂井（フランス国立東洋言語文化大学教授）または
Mary Knighton（青山学院大学教授）またはハルオ・シラネ（コロン
ビア大学教授）

15：20～15：35 沼野 充義（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究
科教授）

15：35～15：50 巽 孝之（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学文学部教授）

15：50～16：20 討論

16：20～16：30 （ 休憩 ）

16：30～18：00 セッションⅢ（総合討論：国際的視野に立った人文学構築のために）

司会 竹本 幹夫・吉田 和彦

参加者 上記の全員

コメンテーター 未定

18：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

日本学術会議・公開シンポジウム

「One health：私たちを取り巻く耐性菌の現状と対策
—身近な耐性菌を知り、対策を考えよう—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会
日本学術会議農学委員会・獣医学分科会
2. 共 催：日本感染症学会（打診中）日本獣医学会（打診中）
3. 後 援：動物用抗菌剤研究会
4. 日 時：令和2年7月25日（土）13：30～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：食の安全分科会開催予定

7. 開催趣旨：

医療における薬剤耐性菌の蔓延は深刻な事態となっています。耐性菌がヒトに至る経路にはヒトからヒトへ直接的に伝播するほか、動物や食品、さらには環境を介する経路も知られています。したがって、耐性菌はヒト、動物、環境で循環しており、世界的に One Health での対策が求められています。耐性菌が蔓延する要因として重要なのは、抗菌薬の過剰使用と誤用であるといわれており、不必要な抗菌薬の使用を制限し耐性菌の出現をできる限り抑制する適正使用の重要性が指摘されています。しかし、一般の方々に対する抗菌薬の使用や耐性菌の出現についての情報が不足しており、そのことが抗菌薬の間違った理解に繋がっていると考えられます。そこで本シンポジウムでは、私たちを取り巻く様々な耐性菌の現状を紹介するとともに、耐性菌対策について参加される皆さんで考えてみたいと思います。

8. 次 第：

司会・座長： 舘田一博（東邦大学医学部・教授）
吉川泰弘（日本学術会議第二部連携会員、
岡山理科大学獣医学部・学部長/教授）

13時30分～13時40分

開会の挨拶：田村 豊（日本学術会議第二部連携会員、
酪農学園大学動物薬教育研究センター・教授）

13時40分～14時00分

食用動物における耐性菌の現状
浅井鉄夫（岐阜大学大学院連合獣医学研究科・教授）

14時00分～14時20分

養殖魚類における耐性菌の現状

廣野育生（東京海洋大学海洋生物資源学部門・教授）

14時20分～14時40分

食品における耐性菌の現状

田村 豊（日本学術会議第二部連携会員、

酪農学園大学動物薬教育研究センター・教授）

休憩 14時40分～14時50分

14時50分～15時10分

医療における耐性菌の現状

松本哲哉（国際医療福祉大学医学部・教授）

15時10分～15時30分

動物、食品、ヒト由来耐性菌の遺伝的関連性

石井良和（東邦大学医学部・教授）

15時30分～15時50分

市民に対する普及啓発活動

大曲貴夫（国立国際医療センター国際感染症センター・センター長/
感染症内科医長）

休憩 15時50分～16時10分

16時10分～16時50分 総合討論

司会： 舘田一博（東邦大学医学部・教授）

吉川泰弘（日本学術会議第二部連携会員、

岡山理科大学獣医学部・学部長/教授）

パネリスト：各講演者

16時50分～17時00分

閉会の挨拶： 吉川泰弘（日本学術会議第二部連携会員、

岡山理科大学獣医学部・学部長/教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

※9月26日第282回幹事会承認済みの案件について、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、日時を変更するもの

公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティに関する課題と今後の展望」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

2. 共 催：なしの予定

3. 後 援：(予定) 国立研究開発法人科学技術振興機構、内閣府男女共同参画局、文部科学省科学技術・学術政策局、公益社団法人日本薬学会、一般社団法人日本看護系学会協議会、一般社団法人日本医学会連合、一般社団法人日本農学会、生活科学系コンソーシアム、生物科学学会連合、日本生命科学アカデミー、日本農学アカデミー、男女共同参画学協会連絡会、全国ダイバーシティネットワーク

4. 日 時：令和2年8月10日（月・祝日） 13:00～17:30

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

医学，薬学，看護学，家政学，農学，基礎生物学など生命科学の多様な分野での現状と課題の違いを明らかにし，それぞれの分野での取り組みから各分野での課題解決の糸口を見出す。

8. 次第：(予定)

司会：大杉 立（日本学術会議第二部会員、東京農業大学客員教授）

13時00分～13時05分

開会挨拶

平井 みどり（日本学術会議第二部会員・副部長、兵庫県赤十字血液センター所長）

13時05分～13時10分

来賓挨拶

13時10分～14時00分

「日本の未来を拓くためのダイバーシティとは ～生命科学の果たす役割～」

渡辺 美代子（日本学術会議副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事長）

14時00分～14時40分

「生命科学分野におけるダイバーシティ推進～過去・現在・未来～」
大隅 典子（東北大学大学院医学系研究科教授）

14時40分～15時10分

「看護学系分野の男女共同参画に関わる課題とその解決に向けた取り組み（仮題）」
小松 浩子（日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学看護医療学部学部長）

休憩 15時10分～15時20分

15時20分～15時50分

「医学系分野の男女共同参画に関わる課題とその解決に向けた取り組み（仮題）」
花岡 裕（虎の門病院消化器外科）

15時50分～16時20分

「薬学系における働き方の現状と課題～リケジョと理系男子@薬学～（仮）」
石井 伊都子（千葉大学病院薬剤部長）

16時20分～16時50分

「真の男女共同参画とは（仮題）」
小川 宣子（中部大学応用生物学部教授）

16時50分～17時20分

「農学系分野の男女共同参画に関わる課題とその解決に向けた取り組み（仮題）」
熊谷 日登美（日本学術会議第二部会員、日本大学生物資源科学部教授）

17時20分～17時30分

閉会の辞

名越 澄子（日本学術会議第二部会員、埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科教授）

9. 関係部の承認の有無： 第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「第4回若手科学者サミット」の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー若手科学者ネットワーク分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：文部科学省（調整中）
4. 日 時：令和2年9月26日（土）13：00～18：00（予定）
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

若手科学者同士の分野を越えたネットワークの強化・研究交流、さらには若手科学者と社会との間にある諸問題を議論することを目的として、若手アカデミー若手科学者ネットワーク分科会では、これまで3回にわたって「若手科学者サミット」を開催し、成功を収めてきた。第4回となる今年度は2部構成として、若手研究者による研究発表に加え、「若手研究者の特殊能力の活用」をテーマとした講演を予定している。

第1部では若手研究者による研究報告として、若手科学者ネットワークに登録している若手の会の推薦により、優れた研究成果を挙げている若手科学者数名による講演を行う。若手科学者同士のネットワークがより強固なものに発展するとともに、異なる研究分野の手法やアプローチの融合による新たな研究領域の創造へとつながることが期待される。

第2部では「若手研究者の特殊能力の活用」をテーマとして、様々な立場からの講演を踏まえ、フロアを交えた討論を行う。若手研究者が持つ、学術研究にとどまらない幅広い能力を、あらゆる手段を使ってどのように活用し、社会へと還元していくか。また学術や若手研究者に対する社会からの支援をどのように広げていくかについて議論し、展望を描く。

8. 次 第（予定）：

13：00 開会の辞

岩崎 渉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科准教授）

第1部「若手研究者による研究報告」

司会：若手アカデミー若手科学者ネットワーク分科会委員（調整中）

13：10 若手研究者による研究報告①（学会若手賞受賞者より選出）（調整中）

13：30 若手研究者による研究報告②（同上）

13：50 若手研究者による研究報告③（同上）

14：10 （休憩）

第2部「若手研究者の特殊能力の活用」

司会：岩崎 渉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科准教授）

14：30 メディア出演を行なっている若手研究者からの話題提供（調整中）

15：00 学術研究に関連する活動を行なっているタレントからの話題提供（同上）

15：30 メディアからの話題提供（同上）

16：00 （休憩）

- 16：20 スポットコンサルティングサービスからの話題提供（同上）
16：50 学術クラウドファンディングサービスからの話題提供（同上）
17：20 全体討論・質疑応答
 ゲスト：文部科学省より（同上）
17：55 閉会の辞
 高瀬 堅吉（日本学術会議連携会員、自治医科大学大学院医学研究科教授）

（下線の講演者は、主催分科会委員）

※第286回幹事会承認済みの案件について、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み日程を延期したものの。

公開シンポジウム「文化の互換可能性—継承、翻訳、再生—」（仮）

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会芸術と文化環境分科会分科会
2. 共 催：学習院大学人文科学研究所共同プロジェクト「前近代日本の造形における古典知の再構築」
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和2年4月26日（日）13：00～18：00
 ※ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によっては再度延期する可能性あり
5. 場 所：京都大学益川ホール
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：「翻訳者は裏切り者Traduttore, traditore」というイタリア語の成句がある。「翻訳者traduttore」と「裏切り者traditore」という語の発音の類似性に基づく一種の語呂合わせである。いかに優れた翻訳でも原文を忠実に置換できるとはかぎらず、そこにはつねに原文からの隔たりの、いわば「裏切り」の可能性が孕まれている、というわけである。文化を継承してゆくことにも、こうした意味での翻訳の側面があるだろう。つまり、想定される文化の伝統に対して、（意図するにせよしないにせよ）そこからずれていってしまう可能性であり、言い換えれば伝統を「裏切る」可能性である。ただし、その際の「裏切り」には、ネガティブなばかりでなくむしろ「創造的」と呼べるような含意も読み込みうるのではないだろうか。本シンポジウムでは、こうした意味での「翻訳としての文化継承」の諸側面について、多彩なゲストとともに考えてみたい。

8. 次 第

司会：上原麻有子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院文学研究科教授）

第一部

13：00～13：30 基調講演

永井由佳里（日本学術会議連携会員、北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科教授）

「創造性のさまざまなあり方—文化・芸術をSGDsの視点から考える—」

13：30～14：10 報告1

荒川正明（学習院大学文学部教授）・繭山浩司（修復家）

「破壊から再生へ ヴィーン・ロースドルフ城所蔵の陶磁器修復」

14：10～14：50 報告2

岡泰央（岡墨光堂代表）「修理が絵画に与える影響についての試論」

第二部

15：10～15：50 報告3

京都絵美（東京芸術大学講師）「日本画の伝統と創造 - 〈模〉の思想をめぐって -」

15：50～16：30 報告4

小野真龍（天王寺舞楽協会理事）「雅楽伝承における「翻訳」あるいは「再生」～雅楽のコスモロジーの視点から」

16：30～17：10 報告5

酒井邦嘉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

「AI時代の創造と芸術」

17：10～18：00 パネルディスカッション

ディスカッサント：武田宙也（日本学術会議連携会員、京都大学大学院人間・環境学研究科准教授）、小田部胤久（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）、三戸信恵（山種美術館特別研究員）、佐野みどり（日本学術会議連携会員、学習院大学文学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

※本件公開シンポジウムは京都大学文学研究科日本哲学史専修の協力のもと開催するものである。

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「高齢者が安心して暮らせるために：フレイル予防に焦点をあてて～取り組みを広げるために～」

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会高齢者の健康分科会
2. 共 催：桜美林大学（予定）
3. 後 援：日本老年社会科学会（未定）
4. 日 時：令和2年5月17日（日）14:30～17:00
5. 場 所：桜美林大学大学院四谷キャンパス（千駄ヶ谷）1階ホール（100人収容）予定
6. 分科会の開催：開催予定あり（当日の13時から14時30分を希望）

7. 開催趣旨：

最近、中高齢者のフレイル予防・健康増進が高齢社会における課題として重視されてきている。フレイルには様々な要因が関わっており、予防に関するアプローチも多様である。高齢者健康分科会は、学際的な委員から構成されており、フレイル予防に関して多角的に捉えることが可能である。こうした分科会の特性を生かし、「コミュニティ・まちづくり」、「社会経済的課題、貧困、就労」という視点も含めたフレイル予防に関する公開シンポジウムの開催を企画した。

フレイル予防の重要性は指摘されているが、必ずしもその取り組みが社会的に充分広がっては言えないという現状もあるため、この取り組みを浸透させるための方策に関しても取り上げることが分科会において合意された。今回のパネルディスカッションでは、委員が専門とする領域におけるフレイル予防の取り組みに関して話題提供し、さらにそれを基にして、参加者と討議することにより、課題を抽出するとともに対策に関して有益な情報交換を行うことを目的とした。

8. 次 第：

午後2時30分 開会挨拶と趣旨説明 長田 久雄（日本学術会議連携会員・高齢者の健康分科会委員長、桜美林大学大学院老年学研究科教授・副学長）

午後14時35分から午後15時55分までパネル話題提供

座長：安村 誠司（日本学術会議第二部会員・高齢者の健康分科会委員、福島県立医科大学理事・副学長・医学部教授）

住居 広土（日本学術会議連携会員・高齢者の健康分科会副委員長、県立広島大学大学院保健福祉学専攻教授）

話題提供：

野口 定久（日本学術会議連携会員・高齢者の健康分科会委員、日本福祉大学大学院特別任用教授）：フレイル予防とまちづくり

三輪 清志（日本学術会議連携会員・高齢者の健康分科会委員、味の素株式会社客員フェロー）：フレイル予防と栄養

伊香賀 俊治（日本学術会議連携会員・高齢者の健康分科会委員、慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授）：フレイル予防と住環境

平岡 公一（日本学術会議連携会員・高齢者の健康分科会委員、お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授）：フレイル予防と経済格差

飯島 勝矢（日本学術会議連携会員・高齢者の健康分科会委員、東京大学高齢社会総合研究機構教授）の話題提供は書面代読紹介予定（フレイル予防と担い手としての高齢者）

午後 4 時から 5 時まで：総合討議

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

※第282回幹事会承認済みの案件について、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、日程を変更するもの

公開シンポジウム「安心感等検討シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同安全・安心・リスク検討分科会

2. 共 催：日本感性工学会

3. 日 時：令和2年5月28日（木）13：00～17：00

4. 場 所：日本学術会議講堂、外1室

5. 分科会等の開催：開催予定あり

6. 開催趣旨：安心な社会を構築するために、安全と安心の関係を整理しながら、市民の安心の実現に向けた課題と対応について議論する。

7. 次 第：

13：00 挨拶

大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学 SIT 総合研究所特任教授）

13：10 特別講演

甘利 俊一（国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問）

14：00 講演「安心感の考え方」

野口 和彦（日本学術会議連携会員、横浜国立大学リスク共生社会創造センター長・大学院環境情報研究院教授）

14：30 講演

向殿 政男（日本学術会議連携会員、明治大学名誉教授）

14：50 講演

松岡 猛（日本学術会議連携会員、宇都宮大学非常勤講師）

15：10 講演

辻 佳子（日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授）

15：30－15：45 （ 休憩 ）

15 : 45 パネル討論

(司会) 大倉 典子 (前掲)

(パネリスト) 中川 聡子 (日本学術会議連携会員、東京都市大学大
学院工学研究科教授)

矢川 元基 (日本学術会議連携会員、公益財団法人原
子力安全研究協会会長)

庄司 裕子 (中央大学理工学部教授)

17 : 00 閉会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「学術研究と科学技術基本法—その科学史技術史的検討」（仮）
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会
2. 共 催：未定
3. 後 援：未定
4. 日 時：平成2年5月31日（日）13：00～15：30
（※本企画は日本科学史学会年会に合わせて実施予定、但し開催日時は調整中、仮置き）
5. 場 所：国士舘大学世田谷キャンパス
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：イノベーション政策が明示的に日本の科学技術政策に書き込まれたのは第3期科学技術基本計画（なお、第2期科学技術基本計画では技術革新政策であった）、その後第4期科学技術基本計画において「科学技術イノベーション政策」が謳われ、その一体化政策推進が説かれた。2014年には「総合科学技術会議」は「総合科学技術・イノベーション会議」へと名称を変え、所轄事務等に「イノベーション創出」を記した。第5期科学技術基本計画では「society5.0」が書き込まれ、2018年以降「統合イノベーション戦略」が推進され、総合科学技術・イノベーション会議は「統合イノベーション戦略推進会議」に宇宙や海洋、知財などを所轄する審議会と共に同推進会議の下位審議会に包摂されることになった。

科学技術基本法が法制化されて25年、科学技術基本計画も5期を数える第6期科学技術基本計画の決定に先駆けて、科学技術基本法に「科学技術の振興」に加えて「イノベーション創出」を明示する、また「人文科学のみに係るものを除く」とする規定を削除するなどの「改正」が、今次国会で審議、法制化されようとしている。

こうした状況の中で日本学術会議は本年1月28日に幹事会声明を発信した。

本シンポジウムは、このような状況に鑑み、「科学・技術」を分科会名に冠する会議体のメンバーまた関連学会の研究者をパネリストにして、科学・技術政策と「学術研究」との相関、「学術研究」固有の意義、また「学術研究」がこれまでたどってきた道筋をふりかえりつつ、学術研究体制の今後のあり方について科学史技術史の側から多面的に検討する機会となればと考へ、企画するものである。

8. 次 第：(予定)

◇開催にあたって：佐野 正博（日本学術会議第一部会員、明治大学経営学部教授）

13：00～13：05

◇司 会：兵藤 友博（日本学術会議連携会員、立命館大学名誉教授）

◇各報告の演題とシンポジスト氏名

13：05～14：25

・「学術にとってのイノベーションとは何か —基本法「改正」の論点との関連で」

兵藤 友博（前掲）

- ・「ポスト冷戦期日本の科学技術政策をどう捉えるか」

綾部 広則（早稲田大学理工学術院教授）

- ・「科学技術基本法「改正」と大学の教育研究システム」

高橋 智子（中央大学法学部教授）

- ・「科学技術基本法「改正」と人文・社会科学」

中村 征樹（日本学術会議連携会員、大阪大学全学教育推進機構准教授）

《休憩》14：25～14：35

◇コメント：

隠岐 さや香（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院経済学研究科教授）

14：35～14：50

◇全体討論：14：50～15：25

◇まとめ：15：25～15：30

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

日本学術会議中部地区会議主催学術講演会
『高齢社会を生きぬくための取り組み』の開催について

1. 主 催 日本学術会議中部地区会議
2. 共 催 金沢大学
3. 日 時 令和2年6月9日（火）13:00～16:00
4. 場 所 金沢大学 十全講堂（金沢市宝町）
5. 開催趣旨 人生100年の時代に突入している我が国において、健康に生きるということが多くの人にとっての関心事と思われる。金沢大学では、高齢社会に伴う認知症に対する予防をめざしたプロジェクトが実施されてきた。さらには生活習慣病への予防をめざしたコホート研究も立ち上がっており、大学と地域との連携がいくつか展開されている。ここでは、これまでの成果や今後の展望を含めた取り組みについて紹介したい。

6. 次 第

- (1) 13:00～13:10 開会挨拶
金沢大学長 山崎 光悦
- (2) 13:10～13:20 主催者挨拶
日本学術会議中部地区会議代表幹事 戸田山 和久
（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院情報科学研究科教授）
- (3) 13:20～13:30 科学者との懇談会活動報告
中部地区科学者懇談会石川県幹事 前田 達男
- (4) 13:30～15:55 学術講演会の演題及び演者
テーマ『高齢社会を生きぬくための取り組み』
 - ・講演「日本学術会議は高齢化する社会に向けて何ができるか」
日本学術会議副会長 渡辺 美代子
 - ・講演「認知症地域コホート研究とそれを起点とする認知症予防法の開発」
金沢大学医薬保健研究域医学系
脳老化・神経病態学（脳神経内科学）教授 山田 正仁
 - ・講演「生活習慣病（Non-communicable diseases）の
個別化予防・ゼロ次予防を目指して」
金沢大学医薬保健研究域医学系環境生態医学・公衆衛生学教授 中村 裕之
- (5) 16:00 閉会挨拶（司会）
日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 松井 三枝
（日本学術会議第一部会員、金沢大学国際基幹教育院教授）

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム「歯と口と健康のための体制作り：
歯学における学術活動および国民への周知活動の方向性」の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会
 2. 共 催：日本歯学系学会協議会，日本歯科医学会連合
 3. 日 時：令和2年年6月18日（木）14：30～16：00
 4. 場 所：日本歯科大学生命歯学部 100周年記念館 地下1階 九段ホール
（東京都千代田区）
 5. 分科会の開催：開催なし
 6. 開催趣旨： 日本学術会議歯学委員会および分科会での第24期の活動において、地域包括ケアシステム構築のために求められる歯科保健医療体制をどういったものにするか、また国民に対してどういった臨床指標を示し、歯と口の健康を通して、国民の健康に寄与するかなどを議論してきた。今回その活動内容を歯学系の学会会員だけでなく、一般国民とともに共有し、今後の学術活動および国民への周知活動についての方向性を議論する予定である。
 7. 次第：
 - 1) 開会挨拶

丹沢 秀樹（日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院医学研究院教授）
羽村 章（日本歯学系学会協議会理事長、日本歯科大学生命歯学部高齢者歯科学教授）
 - 2) シンポジウム

座長：浅海 淳一（日本歯学系学会協議会理事、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯科放射線学分野教授）
- 14：40～15：10 丹沢 秀樹（日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院医学研究院教授）
『地域包括ケアシステム構築のために求められる歯科保健医療体制（仮題）』
- 15：10～15：40 市川 哲雄（日本学術会議第二部会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学分野教授）
『歯と口腔と健康のための新たな臨床指標の確立（仮題）』

15：40～15：55 総合討論・質疑応答

3) 閉会挨拶

渡邊 文彦（日本歯学系学会協議会常任理事，日本歯科大学新潟生命歯学部
歯科補綴学第2講座）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は，主催委員会委員）

公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（仮題）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会
2. 共 催：新学術領域研究「進化制約方向性」、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻
3. 日 時：令和2年6月20日（土）13:00～16:00
4. 場 所：東京大学理学部2号館講堂（東京都文京区本郷7-3-1）
5. 分科会の開催：10:30より開催予定

6. 開催趣旨：

動物科学分科会は、動物科学の普及を動物科学推進のための有効な方策と捉えている。動物の多様性を様々な角度から科学的に紹介し、議論することは、動物科学の面白さと重要性を普及する上で極めて重要である。そのため、動物科学の振興を目的とした公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する（仮題）」を、大学生、大学院生や一般の方を対象として、参加費無料で開催する。

7. 次第：

13:00～13:10

挨拶：岸本 健雄（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学客員教授）

13:10～14:40

講演1：「昆虫、分類、多様性（仮題）」

丸山 宗利（九州大学総合研究博物館 准教授）

講演2：「極限環境に耐える動物クマムシの謎を解く」

國枝 武和（東京大学大学院理学系研究科(理学部) 准教授）

講演3：「匂いとフェロモンによる動物間コミュニケーション」

東原 和成（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科（農学部）教授）

14:40～14:50 休憩

14:50～15:50

講演4：「動物形態多様性創出の法則性を探る一次代は動物学の時代！ー」

田村 宏治（東北大学大学院生命科学研究科教授）

講演5：「動物のかたちが変わるとき」

倉谷 滋（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター チームリーダー）

15:50～16:00

閉会の挨拶：深津 武馬（日本学術会議連携会員、産業技術総合研究所生物プロセス
研究部門 首席研究員）

8. 関係部の承認の有無： 第二部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「インセクトワールド ―多様な昆虫の世界 II―」の開催について

1. 主催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会
2. 共催：日本昆虫科学連合
3. 後援：なし
4. 日時：令和2年6月27日（土）13：00～16：45
5. 場所：東京大学農学部2号館化学第1講義室
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

地球上には我々に恩恵や害を及ぼすか否かにかかわらず、動物種の8割以上を占めるといわれる多様な昆虫が暮らしている。そこで、昨年は一昨年までとは異なり、特に人間との関係にのみ焦点を当てることはせず、多様な視点から昆虫に関わるテーマを取り上げて公開シンポジウムを開催したところ、幸いにも非常に多くの方々に参加していただくことができ、大変好評であった。そこで、本年も昨年のテーマ「インセクトワールド ―多様な昆虫の世界―」を継続し、昨年のシンポジウムではカバーしきれなかった多様な視点から5名の研究者に話題を提供していただく。まず、農研機構（九州沖縄農業研究センター）の矢代博士には、これまで予想もされなかった「シロアリにおけるオスのいない社会の進化」について、本来はオスとメスが共同で社会を営むシロアリにおける“オスを失った社会”についてお話しいただく。つづいて、農研機構（生物機能利用研究部門）の亀田博士には、「ミノムシの生態と糸の特徴」と題し、クモ糸を凌駕する強靱なミノムシの糸の特性とその利用について、大阪府立大学生命環境科学研究科の上田博士には、「アリをめぐる生物の種間関係と共進化」について、アリの巣に寄生するチョウの絶滅要因にも言及しつつご紹介いただく。休憩を挟み、産業技術総合研究所の沓掛博士には「社会性アブラムシ」について社会性の分子基盤などを解説いただき、最後に、玉川大学農学部の小野博士に、「社会性ハチ類の行動生態学」について、集団防衛行動や警報フェロモン等にも言及しつつ基礎と応用の両面からハチ類研究の最前線をご紹介いただく。講演と総合討論の座長は名古屋大学の池田素子教授にお願いする。本シンポジウムが、昆虫をとおして生物の多様性について認識をさらに深める機会となることを期待している。

8. 次第（講演順、タイトルは変更の可能性あり）：

13：00 日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会活動報告

小野 正人（日本学術会議連携会員、玉川大学農学部教授）

13：20 日本昆虫科学連合活動報告

伴戸 久徳（日本昆虫科学連合代表、北海道大学大学院農学研究院教授）

講演

（座長）池田 素子（日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

13：35 「シロアリにおけるオスのいない社会の進化」

矢代 敏久（国立研究開発法人農研機構九州沖縄農業研究センター研究員）

14：05 「ミノムシの生態と糸の特徴」

亀田 恒徳（国立研究開発法人農研機構生物機能利用研究部門ユニット長）

14：35 「アリをめぐる生物の種間関係と共進化」

上田 昇平（大阪府立大学生命環境科学研究科助教）

15：05－15：20 （ 休憩 ）

15：20 「社会性アブラムシに関する研究」

沓掛 磨也子（産業技術総合研究所主任研究員）

15：50 「社会性ハチ類の行動生態学」

小野 正人（日本学術会議連携会員、玉川大学農学部教授）

16：20 総合討論

16：45 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「第12回形態科学シンポジウム：生命科学の魅力を語る高校生
のための集い ～分子と細胞を観る楽しさ～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分
科会、基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援（依頼予定）：日本細胞生物学会、日本解剖学会、日本顕微鏡学会、日
本組織細胞化学会、日本分子生物学会、JST グローバルサ
イエンスキャンパス事業
4. 日 時：令和2年8月20日（木）13:30～17:30
5. 場 所：慶應義塾大学信濃町キャンパス北里講堂（東京都新宿区信濃町35）
6. 分科会の開催：開催予定（12:30～13:30）

7. 開催趣旨：

生命科学研究に関心を持つ高校生に呼びかけ、生命科学研究の最前線を分かりや
すく解説する。また第一線の研究者と高校生が気軽に語り合う場を設け、将来の生
命科学研究を担う人材の啓発に資するものとしたい。

8. 次 第：（予定）

13:30 開会挨拶

岡部繁男（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院医学系研究科教授）

13:35 講演会

講演1

司会：塩見美喜子（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科教授）

「実写版」はたらく細胞

松田道行（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院生命科学研究科・医学研究
科教授）

講演2

司会：藤本豊土（日本学術会議連携会員、順天堂大学大学院医学研究科特任教授）

半世紀の研究を振り返って -観ることの大切さと楽しさ-
大隅良典（東京工業大学栄誉教授）

15:30 高校生と研究者との交流会

司会：仲嶋一範（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学医学部教授）

17:25 閉会の挨拶

菊池章（日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院医学系研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）